

高台へ移転した新崎の諏訪神社



県道3号線（旧国道7号線）に面した神社

祭神 たけみなかたのみこと
建御名方命
とようけひめのみこと
豊受姫命
やまとたけるのみこと
日本武尊

祭礼 4月9～10日
8月27～28日

1576（天正^{てんしょう}4）年、新崎開墾^{かいこん}のころに創立した神社だと伝わっています。

新発田藩の記録によると新崎の開発は1558（永禄^{えいろく}元）年なので、その18年後に神社が創立したことになります。

もともと、今、阿賀野川となっている場所（諏訪^{すわぎ}木）に神社があったといわれています。

しかし川の流れが変わったことによって、1768（明和^{めいわ}5）年に高台の現在地に移転しました。

境内には、嘉永年間（1848～1854）に村の若者が食べてしまった白蛇を供養するために建てた「白蛇権現供養塚^{はくじゃごんげんくようづか}」など、さまざまな石造物もあります。祭りでは新崎伊佐弥神楽^{いざやかぐら}が舞われます。

「北区のお宝ものがたり」は、北区郷土博物館などで1冊800円で頒布しています。

たい こ さん にっ ちょう どう

太古山日長堂ってお寺さんですか？

泰平橋手前の主要地方道 新潟・新
発田・村上線（旧国道7号線）に面した
北側に太古山日長堂があります。もとも
と「新崎7軒衆」のひとりで名主も務め
た古山家の邸宅です。

木造平屋建ての主屋「日長堂」は宝
暦年間（1751～64）に建てられました。
主屋とつながる仏蔵「開山堂」は19世
紀に建てられ、当時の豪農の仏堂の形
を伝えています。いずれも2000（平成
12）年、国の登録有形文化財となりまし
た。また、邸内の築山の庭園は「太古
山」と呼ばれています。

この「太古山日長堂」の名称は、中国
の宋の時代の詩人、唐庚が読んだ
「醉眠」という漢詩の「山静似太古 日
長如小年」という一節によります。「山は
静かで、まるで太古のようだ。1日は長く
て、1年にも感じられる」という意味です。

また、1878（明治11）年の明治天皇
の北陸巡幸のときには、小休所として利
用されました。1885（明治18）年に古山

家の12代当主となった古山文靜は、行
幸地の史跡としての整備を積極的行
いました。新崎の創立を記した「新崎
邨碑」をはじめ、様々な名士、偉人と交
流し、その事績や筆跡を刻んだ石碑な
どを「太古山」にたくさん建てました。

この太古山日長堂のとなりには、「門
樋の生き地藏」と呼ばれる地藏様を安
置しているお堂があります。この地藏様
は台座に「明和2年（1765年）3月」と
彫られていて、大変古い地藏様です。
240年以上、地域の人々から厚く信仰さ
れています。

●●● MEMO ●●●

新崎7軒衆

新崎開発の祖を新崎7軒衆とい
います。戦国時代の天文年間（1532
～1554）に信濃国（長野県）から移
住してきました。古山家をリーダー
に佐藤・伊藤・高橋・井上・土田・
豊崎の7家が田畑を開墾して村を
形成したと伝えられます。子孫は今
でも新崎で暮らしています。

